



移住者 Interview



**文** 明の利器が発展し、世の中はますます便利になってきました。そんな便利になっていく生活の中で、人との会話や温かみなど失いたくないものまで変化しているのも事実としてあります。昔ながらの良さを私たちは忘れかけてしまっているのではないのでしょうか。

4年前に埼玉県の春日部市から東秩父村に移住された稲山杏樹さん。そんな彼女の目指す生活は、宮崎駿監督作品の代表作『となりのトトロ』だといいます。そんな稲山杏樹さんとアレックスさんご夫婦が大切にしている、この地の生活についてお話をうかがってきました。

**理想の生活をするため、自分たちで探した古民家**

東秩父村に移住する前は、舞台の照明や介護士の仕事をしており、朝も夜もないような生活を送っていました。今振り返ると体はタフでしたが、疲れを無理やりカバーしていたようにも思います。その生活リズムをいつまでも続けてはいけないなと思っており、いつかゆっくりとした時間の中で、『となりのトトロ』に出てくるような昔ながらの生活したいとずっと思っていました。最初は私の実家の春日部市で夫も

子どもとしっかり向き合うことができる…そんな生活がここにある。



一緒に暮らしていましたが、夫婦で話し合い家を探そうというところから、実家にも比較的近いこの付近から家を探し始めました。不動産会社を通してなかなかだったので、自らこの地に足を運び、地元の方に『どこか空いている物件はないですか?』と聞きまわり、この家を紹介してもらいました。私も夫も古民家に住み、何もないところから自分たちで造り上げていくという生活をしたかったのですが、その条件にこの家はぴったりで…。大家さんも何をしてもいい。ただ居てくれるだけでいいとおっしゃってくださって。とてもいい縁に恵まれたなと思っています。

**密なコミュニティがあるから安心して子育てができる**

うちは山がすぐそこなので、木々が色づくのも手に取るようにわかります。自然の中で子どもがのびのび育つことで、季節や自然を感じられて、感覚がとも研ぎ澄まされているような気がします。また都心では家の中で遊ぶお子さんが多いかもしれませんが、ここではとにかく遊べる範囲が広いので、体を思いっきり使って遊べます。体をしっかり使うので、夜も寝付きがよく、子どもにとってもいい生活リズムが送れていると思います。

**火を見て「おいしい」といった息子**

この辺りでは薪割りや焚き火など普通ですが、なかなか都会ではできないかと思えます。とても嬉しかったのですが、長男がやっとなしゃべれるくらいになったところに、どこかで焚き火を見て『おいしい』といったそうなんです。彼の中で火が付くという事は、料理を作ることで、ご飯ができることというのが頭の中で方程式になっている。だから火を見て『おいしい』といえることはすごいと褒められたそうです。危ないけども禁止するのではなく、子どもの可能性を伸ばすことも大事なんだと実感しましたね。

**冷蔵庫もテレビもない生活**

移住する前と後では、生活もそうですが、精神的にも大きな変化がありましたね。まず、移住したときに自分たちがやれることはやりたいと思っていたので、このご時世になるべく文明の利器に頼るのは止めました(笑)。ですから、うちには冷蔵庫もありませんし、キッチンには窯オーブン。テレビもありません。そういう今までは物理的な変化もありますが、何よりも大きなことは心が豊かになりました。そりゃあ、ストレスがないわけではありませんが、お金を稼がなきゃ!という時間に追われているよりは、ギリギリですが自分の好きなことをしている今のほうが、とても心が豊かな生活しています。私自身も体のリズムが整って女性ホルモンのバランスがとても良くなりましたね。

また、テレビがないことで、子どもたちとはじっくり接することができ、たくさんのお話が生まれます。子どもからのまっすぐな愛情もきちんと受け取ることもでき、とても満足いく生活スタイルだと思っています。

**稲山杏樹さん**  
埼玉県東秩父村在住。  
ご主人とお子さん3人の5人家族。  
子どもがストレスなくのびのび育つ環境を第一に考え、現在は子ども中心に古き良き日本の暮らしを大切にしている。

